

明治人名辞典 I

仁 杉 英

君は東京の人仁杉八右衛門の長男、嘉永六年八月江戸月本橋北島町に生る。家世々舊幕町奉行組輿力花たり。幼名五郎八郎、後に今の名に改む。夙に漢籍を坪井秀藏、海保辦之助等の門に學び、後東京大學に通學す。慶應二年与力見習となり翌年本勤並となる。明治元年召されて鎮台府附となり尋で市政裁判所、東京府等に奉職す。二年七月罷職後東京府中學、洋學第一校に學び燭乙語を研究す。十一年代言人となり、十九年代言人組合常議員に挙げられ副會長となる。二十六年附議士となり又副會長に推さる。二十年以來東京府會議員、同常置委員、同副議長等に挙げられ三十一年之を罷む。先是二十四年二月東京市會議員、市參事會員、區會議員、同學務委員、徵兵參事委員等に推され三十年八月日本橋區長となり、翌年十月淺草區長に兼任す。三十二年兼任を解かれ三十五年五月區長を辭し更に市會議員に選挙せられ次いで議長となる。此年八月郡部より選出せられて衆議院議員となり十二月解散後之を罷む。翌年一月市會議長に當選す。三十六年十二月深川區長に任ぜられ三十八年八月本郷區長に轉ず。翌年五月小石川區長に兼任し次いで兼任を解かる。三十九年四月日露事件の功に依り勳六等に叙せられる。四十一年六月本所區長に轉じて以て今に及ぶ。君居常俳諧を嗜み壺中無一の号あり(東京市日本橋區濱町1-1)。

君は東京の人、仁杉八右衛門の長男。嘉永六年八月江戸月本橋北島町に生る。家世々舊幕町奉行組輿力花たり。幼名五郎八郎、後に今の名に改む。夙に漢籍を坪井秀藏、海保辦之助等の門に學び、後東京大學に通學す。

慶應二年与力見習となり翌年本勤並となる。明治元年召されて鎮台府附となり尋で市政裁判所、東京府等に奉職す。二年七月罷職後東京府中學、洋學第一校に學び燭乙語を研究す。十一年代言人となり、十九年代言人組合常議員に挙げられ副會長となる。

二十六年弁護士となり又副會長に推さる。二十年以來東京府會議員、同常置委員、同副議長等に挙げられ三十一年之を罷む。先是二十四年二月東京市會議員、市參事會員、區會議員、同學務委員、徵兵參事委員等に推され三十年八月日本橋區長となり、翌年十月淺草區長に兼任す。

三十二年兼任を解かれ三十五年五月區長を辭し更に市會議員に選挙せられ次いで議長となる。此年八月郡部より選出せられて衆議院議員となり十二月解散後之を罷む。翌年一月市會議長に當選す。三十六年十二月深川區長に任ぜられ三十八年八月本郷區長に轉ず。翌年五月小石川區長に兼任し次いで兼任を解かる。三十九年四月日露事件の功に依り勳六等に叙せられる。四十一年六月本所區長に轉じて以て今に及ぶ。君居常俳諧を嗜み壺中無一の号あり(東京市日本橋區濱町1-1)。

仁杉 英君

君は麴町區長なり、舊幕臣仁杉幸昌氏の長男、嘉永六年八月二十三日東京日本橋區北島町に生る。慶應二年町奉行組興力見習となり傍ら漢學を修む。明治元年巖君と共に鎮台府に召出され、市政裁判所及東京府に出仕す。尋で大學南校に濁逸語を修め、明治十一年免許代言人となり、同組合常議員組合副會長に推さる。二十年選ばれて府會議員となり、區會議員、區學務委員、市會議員、府會議員及び市部會副議長、市參事會員等に推さる。三十年日本橋區長となり淺草區長を兼ね、三十五年五月職を辭して市會議員に擧げられ、同八月衆議院議員に選ばれ同十日、市會議長に當選す。留來本區區長深小石川區長、本所區長を経て四十五年麴町區長に任ぜられ現に其職に在り尚、明治二十年以來日本橋區教育會、衛生協會、獎兵義會等に理事又は幹事として今日に至り、名望甚だ高し。曩に日露役の功に依り勳六等に叙せらる、夫人を歌子と呼び、長男寅氏は慶應義塾出身にして現時日本銀行門司支店に在勤す。(日本橋區濱町一ノ一)



君は麴町區長なり、舊幕臣仁杉幸昌氏の長男、嘉永六年八月二十三日東京日本橋區北島町に生る。慶應二年町奉行組興力見習となり傍ら漢學を修む。明治元年巖君と共に鎮台府に召出され、市政裁判所及東京府に出仕す。尋で大學南校に濁逸語を修め、明治十一年免許代言人となり、同組合常議員組合副會長に推さる。二十年選ばれて府會議員となり、區會議員、區學務委員、市會議員、府會議員及び市部會副議長、市參事會員等に推さる。三十年日本橋區長となり淺草區長を兼ね、三十五年五月職を辭して市會議員に擧げられ、同八月衆議院議員に選ばれ同十日、市會議長に當選す。留來本區區長深小石川區長、本所區長を経て四十五年麴町區長に任ぜられ現に其職に在り尚、明治二十年以來日本橋區教育會、衛生協會、獎兵義會等に理事又は幹事として今日に至り、名望甚だ高し。曩に日露役の功に依り勳六等に叙せらる、夫人を歌子と呼び、長男寅氏は慶應義塾出身にして現時日本銀行門司支店に在勤す。(日本橋區濱町一ノ一)

君は麴町區長なり、舊幕臣仁杉幸昌氏の長男、嘉永六年八月二十三日東京日本橋區北島町に生る。慶應二年町奉行組興力見習となり傍ら漢學を修む。明治元年巖君と共に鎮台府に召出され、市政裁判所及び東京府に出仕す。尋で大學南校に濁逸語を修め、明治十一年免許代言人となり、同組合常議員組合副會長に推さる。

二十年選ばれて府會議員となり、區會議員、區學務委員、市會議員、府會議員及び市部會副議長、市參事會員等に推さる。三十年日本橋區長となり淺草區長を兼ね、三十五年五月職を辭して市會議員に擧げられ、同八月衆議院議員に選ばれ同十日、市會議長に當選す。

本所區長を経て四十五年麴町區長に任ぜられ、現に其職に在り尚、明治二十年以來日本橋區教育會、衛生協會、獎兵義會等に理事又は幹事として今日に至り、名望甚だ高し。曩に日露役の功に依り勳六等に叙せらる、夫人を歌子と呼び、長男寅氏は慶應義塾出身にして現時日本銀行門司支店に在勤す。(日本橋區濱町1-1)